

研究分野のキーワード： 声楽， ドイツリート， オペラ， 合唱

研究紹介

私は主に、発声・発音法・ドイツリート・オペラを研究してきました。ここでは、発音法について紹介したいと思います。文化庁の派遣でアメリカへ留学した時に、歌の勉強やオペラの演技の訓練もしましたが、母国語ではない外国語の歌唱における発音法も勉強しました。アメリカにおいても、日本と同様、オペラやヨーロッパの作曲家の歌曲は輸入文化で、歌手たちは歌唱における発音で苦労していました。それを IPA[International Phonetic Alphabet：国際音声記号]で表示して、美しく正確な発音で歌うことができるように系統立てたシステムで指導されていました。音楽大学では歌のレッスンだけではなく、発音法の授業や、それを指導する専門の先生もいて、その授業では歌うのではなく徹底的に IPA の発音の仕方を訓練します。そうすれば、ドイツ語であれ、フランス語であれ、辞書を引いて発音記号をみれば、正しい発音ができるようになります。もちろん意味を確実に理解して、その後、歌で表現していく練習も不可欠です。日本ではこのように系統立てて発音を習得する指導を受けたことがなかったので、とても興味深く勉強になりました。このようにアメリカで吸収した事も、今後の指導に役立てていきたいと思っております。

「音」を「楽しむ」と書いて「音楽」。「学ぶ」のではなく「楽しむ」ことで感性を磨いていき、人格形成の一端を担うことができるのが、音楽だと思っています。私は小学生のころ少年少女合唱団に入り、歌うことを通して音楽の楽しさを経験することができ、さらに、集団生活の中で、友達や先生との関わり方など、社会性も身に付けることができたと思います。また、小学校の時の先生がとても厳しかったのですが素敵な先生で、学芸会の時の歌が楽しかったことも、歌を好きになったきっかけになりました。このような小さい頃の楽しい経験は、私にとってとても印象深く、それが今まで音楽を続けるルーツになっています。愛教大の学生達には、子供たちの可能性を見つけて、伸ばして、楽しさを教えてあげることができる先生になって欲しいと思っています。